

実践報告資料

研究テーマ『だれもが行きたくなる学校づくり

～外国人児童の確かな学力向上とコミュニケーション能力の育成を図り自尊感情を高める～』

研究内容【(1)、(2)、(3)、(4)】※重点的に取り組む内容に○を入れる。

学校名 (加古川市立平岡東小学校)

ア 人権教育としてのねらい

外国籍児童の国籍や生活背景などの実態を意識した学習支援及び生活支援をおこない、外国籍児童を含めたすべての児童に分かりやすい授業づくりを心がけ、全教育活動を通して、互いの違いを認め合い、互いに尊重し合う態度の育成を図る取組を推進する。また、それぞれの外国籍児童の状況に合わせ、児童に寄り添った学習支援や生活指導をおこない、自尊感情の向上をめざす。

イ 研究の概要

教科指導型日本語指導を取り入れた授業研究に取り組み、外国籍児童を含めたすべての児童に分かりやすいユニバーサルデザインの授業を推進する。

外国人差別や同和問題、インターネットによる人権侵害等の人権課題の解消に向けて、人権意識を高めるとともに、互いの違いを認め合い、尊重し、共に生きる豊かな心の育成を目指していく。

領域	教科	道徳	特別活動	総合的な学習の時間
指導者	1学年担任	全教職員	5学年担任	4学年担任
実施日	11月14日	11月28日	6月、11月、2月	11月
取組名	ながさくらべ	人権学習	ぼかぼかハート月間	バリアフリーとユニバーサルデザイン
目 標	教科指導型日本語指導の特徴である、誰もが分かりやすい授業づくりを心がけるための2つの目標。 ・「口の長さの○つ分」の意味がわかる。 ・「口の長さの○つ分」の言い方を使って、長さ比べをすることができる。	全国の人権週間及び人権デーを前に、本校でも人権学習をテーマにした学習活動をおこなう。またオープンスクールとあわせて、家庭や地域とも一緒に人権について考える機会とする。	思いやりのある言葉や態度を学校全体で意識づけ、自分の行動を振り返り、友だちの良さを認め合い、自分や他人と大切にする心を育てる。	障がい者、高齢者、小さな子どもを連れた人や妊婦、外国にルーツをもつ人への配慮が、自然と生まれる社会について、自分たちの生活をふり返りながら考える。 社会の取り組みの良いもの、今後改善が求められるものを考えながら、主体的に社会と関わる態度を養う。
資料名	「おおきさくらべ」 『わくわくさんすう1』 (啓林館)	各学年による 『小学生のどうとく』 (廣済堂あかつき)		「だれもが住みよい社会に」 (廣済堂あかつき) 「わたしの考えたこと」 (東京書籍)
指導内容や指導方法の工夫等	任意単位を決め、測定のルールを確認し、長さを測り比べる。 (個人、ペア、全体で)誰もがわかりやすく感じ取るために、以下のことばを重視する。 ①同じもの ②すきまをあけない ③まっすぐ ④重ねない ⑤しるしをつける	発達段階に応じた内容で、自尊感情や自己有用感、他者を思いやる気持ちを高められる等の学習を実施する。 オープンスクールに伴って、保護者や地域の方々と考える機会とし、親子感想を記入してもらい、その内容も学年だよりで還元する。	「友だちから優しくしてもらったこと」や「友だちががんばっていたこと」など、友だちの良いところを見つけ、カードに書いて教室に掲示する。 他の学級や学年の児童についても良いところを見つけ、カードに書いて教室で掲示していく。	「障がい者だから助ける」「障がい者だってがんばっている」といった、「障がい者だから～」という考え方自体がおかしいことに気づかせる。

